

Centre de Tohonou	Mono	26	10,6	活動	政府
Aplahoué	Mono	15	0,8	活動	半官半民
Centre de Godomey	Atlantique	55	44,0	中止	政府
Ferme Kiki	Ouémé	17	0,5	中止	民間
Ferme Adankon	Ouémé	26	0,5	活動	民間
Hlanhonou	Zou	15	0,2	一部機能	民間
Baka	Borgou	10	0,3	中止	半官半民
Tanéka-Kobo	Donga	6	0,3	中止	半官半民
Karhoum	Donga	8	0,1	活動	民間
合計		178	57,2		

出典：CeRPA

2-7 訪問サイトの養殖現状

(1) グランポポ(Grand Popo)

1) サイト概要

- 場所：ベナン南西部のモノクフォ (Mono Couffo) のモノ川の河口近くにある。コトヌから 94km、トーゴ国境から 20km に位置している。
- 対象魚種： ティラピア
- 養殖形態： 浮生簀

写真 7



- 規格： 縦 4m × 横 3m × 深さ 2m
- 生簀数： 4 面（1 ユニット）
- 建造コスト： 約 500 万 FCFA
- 飼育数： 1 m³ 当たり 100～120 匹で 1 生簀当たり 2,500～3,000 匹
- 生簀設置とその後の経緯
 - 2000 年にベナン国の養殖普及計画の一環として政府予算で設置された。
 - 運営予算不足で実際に施設が稼働したのは 2003 年である。
 - しかし運営管理の問題で、事業は 1 年後に頓挫した。
 - 2005 年に本間専門家の指導を受けて再稼働して、今日に至っている。
- 生簀運営管理
 - メンバーと組織： 本間専門家の指導を受けて 2005 年にグループ（10 人）が再組織された。各メンバーの役割が明確に決められ、ミーティングを通じて各人の業務責任が果たされているかどうか確認する仕組みができている。

- グループ名称 : Groupement Pisciculteur Aloguinou ONKUIHOUE
- グループのメンバーの本業は漁業・農業・畜産である。副収入を得るためグループに参加している。
- 現在収入はすべて銀行に貯金している。事業拡張を目的にメンバーに利益分配していない。

2) 問題点とその改善案

- 現在餌料を外部から購入しているが、その経費が高くつく。
【野菜穀類栽培をおこない、餌の自家生産をする。このための支援が必要】
- 良質な稚稚魚を安定して購入するのが難しい。
【近場で良質な稚魚生産する種苗施設の開設を希望する】
- 雨期の増水期、川の流れが泥流となって速くなり、そのため魚の餌の食いつきが悪くなり死亡率が上昇する。
【生簀の川上側に流れを止める防止柵を設置する／適正飼育密度を確定する】
- 天然漁業資源が減少してきているので養殖規模を増やして収入の向上を図りたいが、生簀建設コストが高すぎる。
【現地で入手できる資材を利用した生簀を開発する】
- 生産性向上を促進していくために養殖技術・餌の生産・管理運営方法等についての情報が不足している。
【他の生簀養殖業者のサイトを訪問して意見交換する】

(2) サヘタ (Sahéta)

1) サイト概要

- 場所 : サイトのあるサヘタ村は、ズー (Zou) 県アグバニニズン (Agbanignizoun) 市に属し、コトヌより 135km 北にある旧ベナン王国の王都アボメの南約 15km に位置する。
- 養殖の形態 : 池中養殖 (Etants vidangables)。天然湧水池から土地の斜面上に水路が敷かれ、その下側に池が造成されている。そして更に池の下側では、富栄養化した池の水を利用した野菜栽培が行われている。

写真 8



水源池

写真 9



斜面に引かれた水路

写真 10



養殖池

写真 11

写真 12

クラクラ
ンと呼ばれ
る緑葉野菜

養殖池の下側
の野菜畑



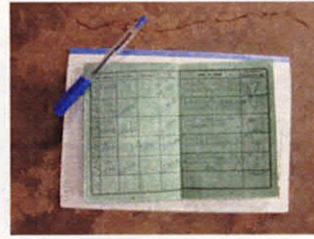
- 養殖の歴史
 - 1970 年：政府資金で池が造成され、国の直接の管理の下で養殖活動が継続されていた。
 - 1990 年：施設運営権が地元住民に委譲された。しかし事業資金管理の問題が発生して 2000 年以降活動が止まっていた。
 - 2004 年：本間専門家の指導の下、地元住民の有志 11 人で構成されるグループが再組織され、以降順調に養殖事業活動が進捗してきている。
- 対象魚種：ティラピア (*Oreochromis niloticus*)
- 池規模
 - 池の数：14 池（コンクリート池 10、素掘池 3、出荷用池 1）、総面積 1,950m²
- 活動内容
 - ティラピア養殖販売
 - 親魚飼育と種苗生産販売
 - 餌料用・換金作物栽培（大豆・とうもろこし・マニョック・インゲン）
 - 養鶏（鳥インフルエンザ以来中止）
- 運営管理
 - 事業運営：11 人のメンバー夫々に肩書きをつけて、業務分掌と責任の所在を明確化させて、メンバーの定期会合を月 1 回開催して各メンバーの業務報告と意見交換をして透明且つ総意で物事の決定がなされる仕組みができている。下記にメンバーの職務を示す。
 - グループ代表 (président)
 - 顧問 2 名 (conseiller)
 - 事務長 (secrétaire)
 - 会計 (trésorier)
 - 副会計 (trésorier adjoint)
 - 安全担当 (sécurité)
 - 会議・集会担当 (organisateur)
 - 出席確認担当 (pointeur)
 - 餌担当 (alimentation)
 - 養鶏担当 (poulailler)
 - 事業収入：銀行預金・経費支払い金・メンバー分配の 3 つの項目に 3 分割されている。因みに 2005 年は 689,500FCFA、2006 年は 872,800 FCFA。

写真 13

写真 14



銀行通帳



定期的に預金されている証明

- 魚販売方法と販売価格： 地方ラジオで販売日と場所を放送する。1 kg 当たり 1,000 FCFA で地域の仲買人と住民が競って購入する。
- メンバー分配： 担当者により毎日出勤簿が記録され、その結果で比例配分されている。
- 農業用地の購入： 換金用の野菜と植林をして現金収入を増やすのを目的として 2005 年の収入で銀行預金した金の 200,000 FCFA を使って 131m×104.4m、62m×63.5m の土地をグループ名義で購入した。
- 2007 年度目標： 養殖の生産性の向上と他の分野からの収入により全体事業収入を 1,500,000 FCFA としている。
- 2007 年新規事業： 2006 年度の貯金を利用して、2 池の造成と鶏 40 匹・豚雄 1 匹と雌 2 匹・ウサギ雄 1 匹と雌 2 匹の購入を計画している。
- グループ内規の作成： 事業が軌道に乗ってきて、グループ内部の規則の整備が不可欠となってきたことから、現在 CeRPA の指導を受けて内規を作成している。
- メンバーの新規加入： 門戸は開放されているが、下記のような加入条件がつけられている。
 - 加入金： 5,000 FCFA
 - 雄鶏 1 匹、雌鶏 1 匹、雄親豚 1 匹

2) 問題点とその改善案

- 養殖池の造成に伴い水路の整備が不可欠となっているが、しっかりしたコンクリート製の水路の整備には金と技術を要する。
【メンバーの労力提供による素掘り水路の整備、マイクロクレジット融資又はドナー支援による整備をする】
- サイトと居住する部落が離れており（4km 以上）、通勤不便・池の魚の盗難の問題がある。
【サイトにメンバーが居住できるような家を建設する】
- 養殖サイトは政府所有財産であるが、グループによる土地・施設利用に関する何らの法的裏づけが存在しない。
【土地及び施設の利用管理に関する譲渡契約等の法的書類を作成する】

(3) タネカココ (Taneka Koko)